

新聞報道が伝えるスポーツ選手の日本国籍取得  
Naturalized Athletes in Japanese Newspaper Coverage

1K07A167-6 野本 健介

指導教員 主査 リー・トンプソン 先生 副査 宮内 孝知 先生

【序論】

オリンピックや W 杯をはじめとする国際スポーツ大会において、国という概念は切り離すことのできないものである。また、平井肇の指摘する現代スポーツにおける外向きのベクトルは、国内リーグにまで波及している。このように多様化する現代社会の中で、国や国籍に対する考え方も複雑化している。そして、その複雑性を助長する要因の一つとしてメディアの影響は看過できない。

本研究では、スポーツ選手の国籍の変更というテーマの中で、外国籍のスポーツ選手の日本国籍取得に焦点を当てる。また、主要なマスメディアの一つである新聞報道を分析することで、メディアが形成する国籍に対する価値観について考察する。

【研究目的】

第一に、国籍に関する法律や様々なスポーツ団体における規約を調査することで、スポーツと国籍をめぐる現況を検討することを目的とする。

次に、新聞報道分析では「新聞報道は、日本国籍を取得したスポーツ選手に対する報道において、競技成績やプレー内容に加えて、日本国籍取得の経緯やそれに対する思いをクローズアップして伝えることで、ナラティブを作り出している」という仮説の元、新聞が日本国籍を取得したスポーツ選手をどのように報道してきたかについて明らかにすることを目的とする。

【研究方法】

法律および規約の調査は、法務省や各団体のホームページを利用し調査する。法律に関しては、日本国籍取得に関する現行の国籍法を調査することで、日本国籍取得における要件などを確認する。また規約に関しては、組織、団体ごとにおけるルールの類似点と相違点を分析し、今後の課題を検討する。

新聞報道分析では、朝日新聞の記事検索サービス聞蔵Ⅱビジュアルを利用した。対象選手は、得られる記事数や出身国、競技の偏りを考慮し、三都主アレサンドロ（サッカー、ブラ

ジル）、田中マルクス闘莉王（サッカー、ブラジル）、李忠成（サッカー、韓国）、宇津木麗華（ソフトボール、中国）、小山ちれ（卓球、中国）、秋山成勲（柔道・総合格闘技、韓国）の 6 選手とした。各選手について、記事数の変化や国籍変更に関連するコードの出現頻度を集計し、分析を行った。

【結果】

各団体における規約を比較した結果、それぞれの団体が少しずつ異なる規約を設けていた。また共通点としては、いずれの団体も例外的な措置を設けていることが分かった。しかしこれは、スポーツにおける国籍という問題の複雑性を浮き彫りにしていると同時に、規約が流動的なものとなっており、その整備が後手に回っていることを証明していると分析した。

新聞報道分析の結果、全ての選手の記事において、オリンピックや W 杯などの国際大会が行われる年に、国籍変更に関する表現を含む記事が多く得られる傾向が見られた。一方で、各選手の報道内容は異なることが分かった。国籍変更の背景により、出身国との歴史的な関係や前の国の代表時代のエピソード、また家族との関係など、取り上げられる内容は選手ごとに異なっていた。それでも、国籍変更に関するコードの出現頻度はいずれの選手も高く、スポーツ選手の活躍を伝える際に、日本国籍取得という事実が大きく取り上げられ、ナラティブとして語られていることが分かった。

【結論】

本研究では、日本国籍を取得したスポーツ選手のみに注目したが、世界に目を向ければさらに多くの事例がある上、国内においてもメディアで国籍変更を取り上げられない選手も存在する。そうした事実を考慮すれば、本研究に関連してさらなる分析を行う余地があると考えられる。またそうした研究は今後、外国籍選手やスポーツ選手の国籍変更に対する公正な道を模索するうえでも重要なものになるに違いない。